

東久留米市立西中学校 第1学年

| 教科 | 児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点 | 具体的な授業改善策 | 評価・検証方法、目標値 評価 (◎、○、●) |
|----|--|---|---|
| 国語 | 課題に意欲的に取り組む生徒が多いが、漢字の学習や「書くこと」に苦手意識のある生徒が見られる。 | 「漢字プリント」を使って反復練習をさせるとともに、感想や意見など「短作文」作りの活動を重視する。 | ◎「漢字学習」については学期に4回程度小テストを行い、正答率を50%以上になるよう指導する。 ○短作文はB評価を6割以上にする。 |
| 社会 | 様々な事象に興味をもって学習に取り組むことができるが、暗記を重視した学習になっていることに課題がある。 日々学習した内容を自ら復習することができるよう、問題集や課題を活用して学習環境を整えたい。 | これまでに得た知識や新しく習ったことをもとに、資料を読み取る活動から思考を深め、様々な事象を理解する授業を展開する。 その日習ったことを一目で復習できるようなワークシートを工夫して作成するとともに、家庭学習が十分にできているか判断できる課題を出す。 | ●単元の終末に新しく得た知識をまとめる時間を設ける。8割以上の生徒が考査で「知識・技能」をB評価以上取ることができる。 ●前時で習ったことに関する小テストを適宜行い、すべて正答することができる生徒が4割以上になるようにする。 |
| 数学 | 意欲的な姿勢で取り組む生徒が多い。計算力は身に付いているが、文章問題の読解力に課題がある。単元別小プリントを実施し、自己採点の元、十分な解説を行い形成的評価の充実を図りたい。 | 教科書の単元学習(章末問題)に取り組む時間を設け、既習学習の振り返り学習をさせる。 授業内で成功体験を多く与え、挑戦しようとする態度を育てる。 | ○定期考査で知識・技能を見取る内容を出題し、8割以上の生徒が正答するように授業をしている。 ○定期考査で思考・判断・表現を見取る内容を出題し、5割以上の生徒が正答するように授業をしていく。 |
| 理科 | 時々忘れ物をする生徒が見受けられ、授業準備の姿勢が十分ではない。 課題などの提出状況に個人差がある。また、自ら考えることが苦手な生徒がおり、改善したい。 | 自己評価をしっかりとできるように、授業内小テストなどを活用していきたい。 考える力を身に着けさせるためにワークシートなどの内容について工夫していきたい。 | ○小テスト(復習確認テスト)や課題プリント、実験レポートを活用する。 ○単元ごとに学習内容の理解度や思考力・判断力などの振り返りを行わせ、アドバイスをを行う。 |
| 音楽 | 音楽を形づくっている要素とその働きについて理解しようと意欲的に取り組んでいるが、定着に個人差がある。 音楽を形づくっている要素を根拠にして自分の考えをまとめる力をつけられるよう個別に指導す | 音楽を形づくっている要素やその働きを自分の感じたことと結び付けて考えられるようにワークシートを工夫する。 | ◎題材のまとめの際、思考・判断・表現の総括的評価の場面でB評価以上の生徒が8割を超えるようにする。 |
| 美術 | 概ね話をよく聴き落ち着いて取り組んでいる。一部の生徒が自分の課題に気が付かないまま取り組んでいる。 | 振り返りシートの記述から具体的な課題に気が付いているかを読み取る。毎授業のポイントを繰り返し授業内で指導する。 | ○具体的な課題を言語化できるように個別にアドバイスをを行う。 |

| | | | |
|-----------|--|--|---|
| 保健体育 | 幼少期の運動経験の差が激しく、特に技能面では二極化を感じる。運動の得意、不得意にかかわらず、保健体育科のものの見方・考え方を基にして、自分の課題に向き合う力を身に付けさせる。 | ペア学習、グループ学習などを行うことで、仲間の課題を見付けることから、自分の課題に気付かせる。そして、その課題を改善する方法を自分で考える思考力や仲間と協力して解決していく表現力の高まる授業を工夫する。 | ○振り返りカードで自分の課題が明確になっているかを確認。その後、授業内で個別のアドバイスをしっかり行い、一人一人が自分の課題に向き合っているかを評価する。総括的評価でB評価以上の生徒が7割を超えられるようにする。 |
| 技術 | ものづくりの経験が少ないため、作業の見通しや工具の扱い方になれていない。 | 初めて扱う工具を、安全で正しく使用できるように、様々な事例をICT機器等で提示し理解させる。作業工程を細かく図解し、自分の考えで進められるよう工夫し、達成感を味わえるようにする。 | ○小テストや、動画撮影を通して、安全で正しく作業ができるているか、確認する。それらに関わる内容を定期考査で出題し確認する。作業工程についてしっかり理解ができるているか学期の考査で確認する。 |
| 家庭 | 栄養素の学習に意欲的であり食への関心が高い。意欲的に授業に臨んでいる。 | 自分の朝食を振り返り、改善点を見つける。これを発展させ、1日3食の献立を立てられるようにする。 | ◎5大栄養素の復習後「栄養バランスの良い朝食」を考えさせ、朝食を食べることの意味や重要性をまとめさせる。 |
| | 食の栄養素とその働きの理解の定着と自ら工夫して家庭で実践できる力をつけたい。 | ワークやミニテスト形式の練習（形成的評価含）・実習学習の家庭での実習を行う。 | ◎栄養素の分類ミニテスト（練習を経てのテスト）2回くらいとその度ごとの解説。 |
| 外国語 | 「書くこと」の知識・技能において、既習の文法事項が定着していない生徒が多い。 | 新しい単元でも、既習の英文法を取り入れて問題演習を行うなどスパイラル学習で定着を図る。 | ○期末考査の「書くこと」の知識・技能でBに到達する生徒を8割以上にする。 |
| | 「読むこと」の知識・技能において、既習の単語や文法事項が定着していない生徒が多い。 | 場面設定のある英文で使い方を示すようにし、文脈から意味を連想できるようにする。 | ○「話すこと」のパフォーマンステストを実施し、思考・判断・表現の評価でBを取る生徒を7割以上にする。 |
| 特別の徳科 | 自分の考えや意見を述べるとともに、他の意見を傾聴し見方・考え方を広げようとする生徒が多いが、表現を苦手とする生徒が一定数いる。 | 他者の意見を取り入れながら、自己の考えを言葉や文章に表現できるようにする。 | ◎ファイルに保存したワークシートによる振り返りを行い、表現の成長という視点でも個人内評価を行う。 |
| | 他者の表現を取り込み、表現も多面的・多角的になるよう指導したい。 | 他者の意見を意識しやすいようにワークシートを工夫する。 | ◎学期末にワークシートを引用しながら個人内評価を行うとともに、成長が見られた点を励まし、更なる成長につなげる。 |
| 学習の総合的な時間 | 人権に関する学習を通し諸課題について考えることができた。身近な職業のつながりを考えることができた。 見通しをもって学習に取り組むことが出来るように流れについて丁寧に説明する。 | 現代の人権課題についての記事を読み取る。職業についてインタビューをしたり調査することで、より具体的に深い学びにつなげるようにする。 取組の予定や調べ方を意識させるため、計画や調べ方をワークシートで示し、丁寧に説明する。 | ◎全員が人権作文を書くことを目指す。 ◎興味・関心のある職業を明確に挙げることでできる生徒を7割以上にする。 ◎学習の最後に学んだことをまとめさせ、調べ学習の方法や発表の良かった点、改善すべき点を確認する。 |